花の名前は何でしょうか

第3回

1
まめ科　　コマツナギ

コマツナギ　駒繋ぎ

草本に見えるが木本であり、小低木である。

和名の由来は馬をもつなぎとめることが出来ることから。

2
ががいも科　ガガイモ

ガガイモ　蘿蔔（かがみ）　鏡芋　芄蘭

古名はカガミまたはカガミグサ。イモは根（芋）ではなく実の形をいう。

蘿蔔の由来は少彦名神が天之蘿蔔船に乗って大国主命の下に来たことによる。この船はガガイモの実を2つに割った小さな舟のと。

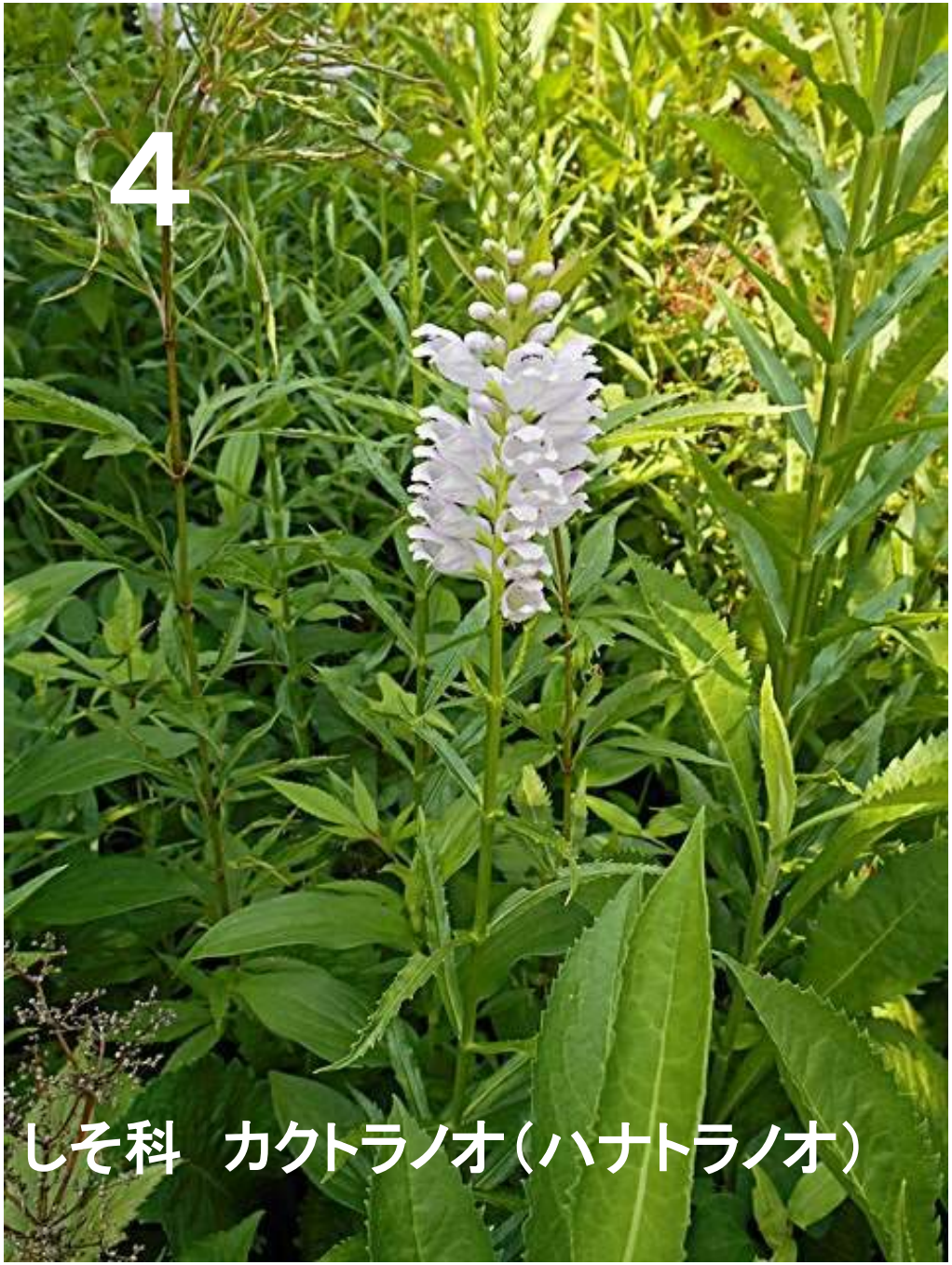
ヘクソカズラに良く似るが、蔓は右巻き:Z巻（ヘクソカズラは左巻）、悪臭はない、果実は紡錘形の袋果で毛（綿毛）の生えた種子を多数つける（キジョランに似る）

少彦名神は医療・酒・まじないの神。一寸法師のモデル？

3
いね科　ジュズダマ

ジュズダマ　数珠玉

熱帯アジア原産
ハトムギはジュズダマの栽培種


4
しそ科　カクトラノオ（ハナトラノオ）

カクトラノオ　角虎の尾

Physostegia　virdiniana

別名：ハナトラノオ　花虎の尾

北米東部（バージニア州）原産、日本へは大正時代、観賞用として渡来。白の他にピンク、紫がある。

5
らん科　サイハイラン

サイハイラン　采配蘭

名前の由来：花序の様子を兵を指揮する采配に見立てたことによる。

南千島・北海道から九州まで広く分布する。アジアでは朝鮮南部、中国、ヒマラヤに分布。

菌根菌（共生菌）を作って、栄養分をやり取りすることで成育する。地中（土壌中）に張りめくらせた菌糸から、窒素やリン酸を宿主植物（サイハイラン）に供給し、宿主が光合成で造ったデンプンの供給を受ける：共生する。らん科の植物に多い。

４億年前の化石から発見されたという報告もある。

6
またたび科　マタタビ

マタタビ：　木天蓼（もくてんりょう）とも読む

和名の由来

**　本草和名（９１８年）に「和多々比・わたたひ」**
**　延喜式　（９２７年）に「和太太備・わたたび」　があるが**

最も有力なのがアイヌ語の「マタタムブ」　{マタは冬、タムブは亀の甲の意味で中えい（虫こぶ）を意味する}から来ているという説：牧野富太郎説。

一説に「疲れた旅人がマタタビの実を食べたところ、再び旅を続けることが出来るようになった」ことから「復旅：また・たび」という説もある。

果実は熟すとそのまま食べられるが、塩漬け、みそ漬け、薬用酒（マタタビ酒）としてりようする。 キウイはまたたび科の植物。

ネコ科の動物特にイエネコはマタアtビ特有の臭気（マタタビラクトン、アクチニジン）に特別の反応を示す。 他にイヌハッカもネコ科の動物が反応を示す。

7
ゆきのした科　トリアシショウマ

トリアシショウマ　鳥脚升麻

〇〇ショウマと名前のつく植物は多い。

ゆきのした科

トリアシショウマ、アカショウマ、アワモリショウマ、（チダケサシ、ハナチダケサシ）。

きんぽうげ科

サラシナショウマ、イヌショウマ、オオバショウマ、ルイヨウショウマ、レンゲショウマ。

ばら科

ヤマブキショウマ。

8
まめ科　クズ

クズ　葛

名前の由来：大和国吉野川の上流「国栖（くず）」が葛粉の産地であったことに由来する。

食用（葛湯）、薬用（葛根湯）

世界の侵略的外来種ワースト100（ 100 of the World ‘s Worst Invasive Alien Species）とは、国際自然保護連合（IUCN）の種の保全委員会が定めた、本来の生育・生息地以外に侵入した外来種の中で、特に生態系や人間活動への影響が大きい生物のリストである。

植物では、クズがある。（１８７６年　アメリカ・フィラデルフィア独立１００年祭で日本から持ち込まれた）

日本の侵略的外来種ワースト100

ハルジオン　ヒメジョオン

万葉の昔から“秋の七草”　　観賞用

山之上憶良の歌に由来するとか

「萩の花尾花 葛花 瞿麦（なでしこ）の花女郎花 また藤袴 朝貌（あさがお）の花」 朝貌＝桔梗

「はぎききょう、くずおみなえしふじばかま、おばななでしこ、これぞあきのななくさ」と歌う。

頭文字の語呂合わせ。

1）ハスキーなおふくろ　ハ＝萩（ハギ）　ス＝薄（ススキ）　キ＝桔梗（キキョウ）
な＝撫子（ナデシコ）お＝女郎花（オミナエシ）ふ＝藤袴（フジバカマ）く＝葛（クズ）ろ。

2）お好きな服は？　お＝おみなえし、す＝すすき、き＝ききょう、な＝なでしこ、
　ふ＝ふじばかま、く＝くず、は＝はぎ　だそうです。

春の七草　　食用

“芹なずな御形はこべら仏の座すずなすずしろ”これぞ七草

9
きつねのまご科　キツネノマゴ

キツネノマゴ　狐の孫

名前の由来：はっきりしない。花序が狐の尾のようだとか、花の形がキツネの顔を思わせるなどの説がある。

琉球列島には花が小型のキツネノヒマゴがあるという。

この仲間にハグロソウがある。写真は裏高尾林道。

10
あかばな科　メマツヨイグサ

メマツヨイグサ　雌待宵草
（アレチマツヨイグサ）

この仲間には	原産地	渡来年
マツヨイグサ	チリ	幕末
コマツヨイグサ	北アメリカ	明治後期
オオマツヨイグサ	北アメリカ	明治初期
メマツヨイグサ	北アメリカ	明治後期
ヒルザキツキミソウ	北アメリカ	大正末期
アカバナユウゲショウ	南アメリカ	明治時代
ツキミソウ	メキシコ	幕末

11
あぶらな科　マメグンバイナズナ

マメグンバイナズナ　豆軍配薺（コウベナズナ）

北アメリカ原産　明治２５年前後に日本に入り、いたるところの荒地に雑草として帰化した。別名・コウベナズナは最初の採集地による。
少しの香とワサビの辛味がある。

一方、グンバイナズナはヨーロッパ原産で、日本やアメリカに帰化した。